

与謝の海病院NEWS

平成18年10月

Vol.108

～ 患者が中心の、地域に開かれた病院 ～

京都府立与謝の海病院
〒629-2261
京都府与謝郡与謝野町字男山481
電話/FAX 0772-46-3371 (代表)
<http://www.pref.kyoto.jp/yosanoumihp/>
●発行責任者：浅田事務部長

地域とともに最高の医療を

京都府立与謝の海病院

院長 内藤和世

当院は「患者が中心の、地域に開かれた病院」を理念として、京都府北部の急性期医療、高度・高次医療を担っています。

医療の世界にも大きな変化が押し寄せてきています。医療制度改革や診療報酬の引き下げで病院経営も非常に苦しいものがあります。患者様も医療費の自己負担が増加しています。一方、一部の診療科での医師不足、あるいは地域での偏在が大きな社会問題になっています。医療資源の少ない丹後医療圏ではこれらの問題に対処するためには、地域全体で取り組むことが大切です。

与謝の海病院では地域の皆様に安心安全な医療を提供するための体制作りを行ってきました。幸いにも与謝医師会、北丹医師会の先生方のご協力の下に、「かかりつけ医制度」、「開放型病床」、「大型診療機器の共同利用」、「紹介患者様事前予約制度」などができるようになりました。患者様はかかりつけ医の先生と相談しながら、与謝の海病院の機能を利用いただくことができます。これからも、地域の先生と協働して患者様の利便性を高めていきたいと考えています。

昨年度の患者様や地域の皆様から寄せられたご意見がまとまりました。多くの苦情、改善すべき点をご指摘いただきました。なかにはお褒めの言葉や激励もいただきました。その内訳を見ますと、以前は「待ち時間」に関する苦情が6割近くあったものが1割まで減りました。電子カルテの導入と「かかりつけ医」制度の相乗効果と考えています。変わって医師、看護師をはじめとする職員の対応についての多くのご意見をいただきました。患者様との対話不足、説明不足が原因と考えられ、大いに反省しています。皆様からのご意見は、病院を良くする原動力であり、宝物と思います。これからも多くのご意見をお待ちしています。

与謝の海病院はやっと変革の第一歩を踏み出したところです。病院理念を実現し、地域の皆様に最高の医療をお届けできるよう、職員一同努力してまいりますので、今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

主な内容

- | | | |
|-------|--------------------|----------------|
| 2 ページ | ○平成17年度御意見の内訳 | ○検診のススメ |
| 3 ページ | ○診療科紹介 | ○選択メニュー拡大のお知らせ |
| | ○医師が進める上手な外来のかかりかた | |
| 4 ページ | ○外来各科診察担当医表 | ○病院ボランティアについて |
| | | ○お知らせ |

— 人と人 認め合うことから始めよう —

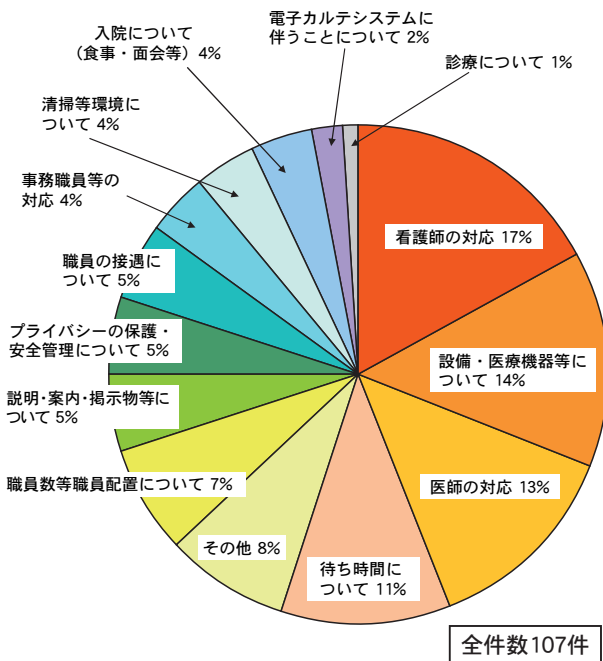
ご意見箱から

平成17年の4月から平成18年3月までに院内のご意見箱やお手紙で寄せられた、ご意見のまとめをご報告いたします。

皆さまからのご意見をもとに、更により良い病院づくりに活かしていきたいと思っております。

これからも多くのご意見お待ちしております。

平成17年度 患者様からのご意見の内訳



京都府立与謝の海病院サービス向上委員会
意見・苦情の対応に関する委員会

① 待ち時間について (12件)

- 「予約とは名ばかりで待たせすぎ!!時間を守ってください。」
- 「家族が救急受診をした際、かなり長く待たされた。」など…

お答え

大変ご迷惑をおかけしています。出来るだけ時間内に診察・検査ができるよう指導し、待ち時間調査や予約時間枠の見直しなど日々改善にはげんでおります。救急の待ち時間についても大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。ただ、救急の場合、重症度により順番が前後することもあるのでご理解ください。

また、かかりつけ医を通じ、予約をとっていただきますと、待ち時間なく、最優先で診察・検査を受けていただけます。

② 医師の対応について (13件)

- 「診察の時分かりやすい症状の説明がしてくれなかった。聞き直すとムッとされた。」など…

③ 看護士の対応について (19件)

- 「一部の看護士の家族への対応が非常に悪い。」
- 「病室に入る際、ノックや挨拶もなかった。」など…

お答え

不快な思いをされた方には心よりお詫びいたします。当院では皆さまに満足いただけるよう、医師・看護士をはじめ職員全員が接遇研修を重ねております。また、個人が特定されるものにつきましては個別に指導もさせていただきました。

今後、このようなことの無いよう改善していきます。



マンモグラフィ検査

日本人女性の乳がん罹患率は晩婚化、食生活の変化などに伴い年々増加し続けており、今では22人に1人の割合となっています。この乳がんの早期発見に役立つことで注目を集めているのが「マンモグラフィ検査」です。

現に平成17年度から、40歳以上の女性の乳がん検診では必ず実施されることになっていますが、その受診率はわずか1.8%と非常に低いのが現状です。

— 検診のススメ —

大切なのは早期発見・早期治療

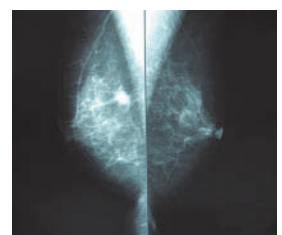
乳がんは自己検診で発見することもでき、早期発見・治療ができれば、約95%と高い確率で治るといわれています。

また乳房を残す手術（乳房温存術）で治療できる可能性も高いのです。

実際のマンモグラフィ

乳房を直に挟みながら圧迫をして、上下方向1枚、内外斜位方向1枚、X線撮影を行うのが標準的撮影です。約15分程度で終了します。

圧迫による乳房の痛みが多少あります。しかし、この撮影により触れることのできない初期の乳がんは勿論、しこりを作らない乳がんを白い影や石灰砂の陰影として見つけることができます。
(放射線科 秋武)



診療科紹介

『呼吸器科』

当院には京都府北部唯一の結核病棟があり、丹後地区のみならず、遠く舞鶴、綾部市からも患者を受け入れています。

近年、日本人には肺癌が急増し、深刻な問題となっていますが、診断のために気管支ファイバー検査、経皮肺針生検を行い、治療は早期に発見できた症例は外科と連携して速やかな手術を、手術が適さない症例には抗癌剤による化学療法や鎮痛薬による緩和医療を行い、生活の質を向上できるようにしています。(ただし、当院では放射線治療設備はありません。)

高齢化社会を反映して脳梗塞後遺症などに合併する誤嚥性肺炎が増えておりますが、消化器科と連携して胃瘻を設けて、再発を抑える工夫もしています。在宅酸素療法や睡眠時無呼吸症候群の診断と治療も行っています。

また、呼吸器疾患のみならず糖尿病、代謝、内分泌疾患や神経内科疾患も担当しています。(担当医はお問い合わせください。)

(呼吸器科 大月)

選択メニュー拡大のお知らせ



当院ではこれまでから患者様の食欲回復と快適な入院生活を送っていただくための選択食メニューを実施してきました。今回、8月より、3回/週から5回/週に拡大しております。

今回の取組みとしては、朝食メニューが選択していただけるようにしました。

パン食の苦手な方は、米飯または粥を選んでいただけますし、米飯食が苦手の方はパンを選んでいただけます。

パンの種類(7種類)に幅をもたせたり、主食に合わせた副食の組み合わせをこころがけて献立作成をしております。

患者様がご自分で選択出来るので、朝の主食に対しての個別対応のオーダーも減りました。

患者様からは、「朝のパン食に生野菜のサラダが副食として出て大変嬉しかった。」という言葉もいただきました。今後も患者様に喜んでいただけるよう頑張りたいです。

(給食課職員一同)

— 医師が進める上手な外来のかかりかた — 循環器科医長 計良夏哉

診療科の医長として循環器の専門外来以外にも、初診や診察がついていない患者様の診療窓口として「総合内科」外来を務めてから三年になります。

大きな病院の外来に対して「三時間待って、三分診療」などという言葉がささやかれて久しいですが、待ち時間については、各病院で予約診療と適切な時間設定を行うことで是正されてきてはいるものの、診療時間は様々な理由からどうしても限られてしまうのが否めない現状です。内科医にとって、問診により患者様から診断に必要な情報を得ることは、胸に聴診器を当てたり、お腹を触ったりするのと同じくらい大切な作業です。限られた時間のなかで、いかに多くの有用な情報を、患者様から聞きだすかが勝負ですし、一方患者様の側では、いかに正確な情報を、うまくまとめて医師に伝えるかが「診断への近道」になります。それらの情報から、患者様の年齢・性別などから総合的に判断して、必要最低限の検査で、出来るだけ早く、安く、正しい診断につながるべく、最大限の効果が得られる診療プランをたえられるかが、医師の腕の見せ所です。診療はすべて患者様と医師との共同作業ですが、「医師の手の内」を少しでも知ってもらうことで、スムーズな診療の一助にならないかと考えました。

医師がどうしてそんなことを尋ねるのかを知る？

外来では医師は、診断に必要な情報は「根掘り葉掘り」尋ねます。医師も看護師も、その他の病院職員も「守秘義務」があり、そこで聴いた情報を外に漏らすと罰せられますので、プライバシーが守られている事は安心してください。「いつから/どんな症状か/それがどう変わっていったか/どういう時に症状がおこるか/仕事で普段どれくらい動くのか/仕事場や住宅の環境は/自分と家族の病歴は/いま一番困っているのは何か」などを尋ねられますが、診察前にそれらをメモしておくことによって言い忘れを防ぐことができます。現在飲んでいる薬のリストや最近の検査結果は他の医療機関のものであっても、また自宅での血圧の測定データなども診療上大変有用な情報です。

医師がどうしてそんなことを言うのかを知る？

現在他の病院で治療を受けていることや、当院を受診する

前に同じ病気で他院の診療を受けたことを言いたくない気持ちは容易に察することができます。また当院を受診することを「かかりつけ医」の先生に伝えると叱られるのではないかとと思われる方も多いと思います。「現在他の医療機関で検査、治療(投薬)を受けていないか/今回の訴えで他の医療機関を受診したことがあるか/そこではどんな検査をし、医師には何と説明されたか/どんな薬をもらって効果はどうであったか」などは結局最後には尋ねられます。短い期間に同じ検査をくりかえすことは、医療費的にも損をしていることになり、薬が重なると思わぬ副作用が出ることもあります。診療内容に納得できない場合、「かかりつけ医」や当院の外来医師が行った検査結果を含めた「診療情報提供書」(紹介状)を作成してもらってから、他院へ紹介してもらおうことをお勧めします。当院を受診される場合でも、当院から他院に移られる場合でも同じことが当てはまります。

医療機関の選び方と情報収集の仕方

その病院が継続して通えるか? 時間外や救急時に行きやすい場所にあるか? 地域の中でどのような役割を担っているか? などは重要なポイントです。医療機関は、病院全体、診療科、個別の医師の情報を決められた約束に基づいて、出来るだけ公開しようという世の中の流れにあります。病院の中の掲示物、情報誌、インターネットのホームページなどから、診療情報を容易に入手できる時代になってきました。

最後に

診療はすべて患者様と医師との共同作業であることをもう一度強調します。医療機関を超えてカルテ情報を共有化する動きや、カルテの情報を患者様がいつでも容易に見ることができたり、患者がカルテに書き込みをしたりする試みは、すでに始まっているところもあります。診療情報は患者様のため以外の何ものでもありません。患者と医師がうまくコミュニケーションをとる事は、いい医療を受けることには必要不可欠です。

けいら なつや：日本内科学会認定内科専門医

日本循環器病学会認定循環器専門医

外来各科診察担当医表

平成18年10月2日

診察室	診療科	月	火	水	木	金
⑪	総合内科	時田和彦 担当部長	計良夏哉 循環器科医長	大月亮三 呼吸器科医長	時田和彦 担当部長	保田宏明 消化器科医長
⑫	呼吸器科	小暮彰典 副医長 (糖尿病)	大月亮三 医長		小暮彰典 副医長 (糖尿病)	大月亮三 医長
	消化器科			森口理久 副医長 (肝臓)		
⑬		杉山祐介 医師	今村重義 医師	和田貴子 医師	保田宏明 医長	森康二郎 医師
⑭	循環器科	計良夏哉 医長	西川 享 医師	阪本 貴 医師	木村晋三 副医長	竹田光男 医師
⑳	精神科神経科	西田誠司 医師	上村 宏 医長	上村 宏 医長	上村 宏 医長	西田誠司 医師
23	小児科	和泉守篤 副医長	山添一郎 医長	山添一郎 医長	和泉守篤 副医長	山添一郎 医長
⑱	外科	1診 内藤和世 院長	鈴木茂敏 医長	藤 信明 医長	渡辺太治 医師	谷口弘毅 診療部長
		2診 小菅敏幸 医師		柏本錦吾 医師		伊藤 剛 副医長
		乳腺クリニック (1・3週)伊藤剛 副医長 (2・4週)渡辺太治 医師 (5週) 小菅敏幸 医師 (午後)				
⑳	整形外科	(輪番)長澤浩治 副医長 (輪番)大久保直規 医師	長岡孝則 医長	大久保直規 医師	長岡孝則 医長	長澤浩治 副医長
⑰	脳神経外科	林 泰弘 医長	林 泰弘 医長	會田和泰 医師	會田和泰 医師	林 泰弘 医長
⑲	眼科	1診 福岡秀記 医師	福岡秀記 医師	稲垣香代子 医師	福岡秀記 医師	稲垣香代子 医師
		2診 稲垣香代子 医師		成瀬繁太 医長	成瀬繁太 医長	
㉑	産婦人科	(午前)渡辺喜信 医長 (午後)奥田知宏 副医長	岩破一博 副院長	渡辺喜信 医長	奥田知宏 副医長	岩破一博 副院長
㉒	泌尿器科	朴 英寿 医師	野本剛史 医長	野本剛史 医長	朴 英寿 医師	野本剛史 医長
㉓	耳鼻咽喉科	1診 佐渡文彦 副医長	正垣一博 医長	正垣一博 医長	正垣一博 医長	正垣一博 医長
		2診	佐渡文彦 副医長	佐渡文彦 副医長	佐渡文彦 副医長	
㉔	ペインクリニック		(奇数週)深澤圭太 医長 (偶数週)上野博司 副医長			
⑯	皮膚科	筏さやか 医長	筏さやか 医長	筏さやか 医長		筏さやか 医長

●受付時間 8:00~11:00 (ただし、乳腺クリニックは14:30まで)

●閉診日 土・日曜日・祝日 (急患は、時間外でも診療) 京都府立与謝の海病院

医師の異動について

採用・転入者

平成18年7月1日付
外科 渡辺 太治
平成18年8月1日付
泌尿器科 朴 英寿
平成18年9月1日付
整形外科 長岡 孝則
平成18年10月1日付
病理 真崎 武
精神科・神経科 西田 誠司

退職・転出者

平成18年6月30日付
消化器科 上田 享司
外科 岡 克彦
平成18年7月31日付
泌尿器科 稲葉 光彦
平成18年8月31日付
整形外科 高橋 謙治
平成18年9月30日付
精神科・神経科 小林 芳樹

当院で活躍中のボランティアをご存じですか？

患者さまが安心して治療を受けていただくために、平成18年7月3日から、当院でボランティアの登録をさせていただき活動されています。

当初6名から始まりましたが、だんだんと人数も増えています。(庶務課)



ふれあい看護体験

患者さんとのふれあいを通じて、世話・看護・助け合うことなどに理解と関心を深めてもらい、将来の看護の道へのきっかけとなればと、今年も7月に実施いたしました。(庶務課)



お知らせ

当院で、いっしょに働きませんか？

現在、下記臨時職員を募集しています。

(募集職種)

- 助産師・看護師・准看護師
- 視能訓練士
- 理学療法士

ボランティアへのお誘い

当院では、患者様が安心して治療を受けていただくために、皆様のご支援をお願いしております。

(活動内容)

- 院内の施設案内
- 車いす利用の患者さま及び身体の不自由な方等の介助 等々

臨時職員・ボランティアの詳細につきましては、当院庶務課までお問い合わせください。(0772-46-3371 代表)